

令和5年度 アスパラガス栽培基準

巻岐市スマート農業推進協議会

月	旬	1 年 目		2 年 目									
		主要作業	作業の要点	主要作業	作業の要点								
1	上	圃場準備 ハウス建設	<p>品 種：ウエルカム（セル苗購入）</p> <p>圃場準備 耕盤破砕と有機物・堆肥・石灰資材の投入を十分に行う。</p> <p>60cm以上深耕し、有効作土層を確保する。 （注）深耕に際して天地返しは行わない 必要に応じて明渠、暗渠を設置する（暗渠はできるだけ畦毎に設置する）。</p> <p>外張りビニールは、夏季の昇温抑制効果のある光散乱フィルムを検討する。</p> <p>○定植 栽植密度(例) (10a当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設規模</th> <th>畦幅</th> <th>株間</th> <th>栽植本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>間口6.0m</td> <td>1.5m</td> <td>25cm</td> <td>2,660本</td> </tr> </tbody> </table>	施設規模	畦幅	株間	栽植本数	間口6.0m	1.5m	25cm	2,660本	<p>灌 水</p> <p>冬肥施用 保温開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保温開始前に十分灌水しておく。 二重カーテン（または9尺トンネル）を必ず設置する。霜、低温による被害軽減にパオパオやパスライト等の資材被覆は有効である。 すきま風対策を実施し、保温を図る。 保温開始は1月20日頃とする。 萌芽揃いまで換気しない。萌芽後は日中30℃以上になれば換気し、夜間は密閉する（3月以降は25℃で換気）。 収穫期間中は適宜灌水する（必ず晴天日の午前中に3～4日おきに行い、畦表面の湿度を保つ）。 萌芽茎が27～28cmになれば地際部から収穫する。 立茎時期の目安 収穫開始から30日経過した頃に検討し、立茎時期が遅れないように注意する。
	施設規模			畦幅	株間	栽植本数							
	間口6.0m			1.5m	25cm	2,660本							
中													
下													
2	上	<p>基肥施用 ビニール被覆 二重カーテン △ 定植 △ 灌水 △</p>	<p>●収穫開始 温度管理 灌水</p>	<p>●収穫開始 温度管理 灌水</p>									
	中												
	下												
3	上	<p>ハウス換気始め</p>	<p>○定植 栽植密度(例) (10a当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設規模</th> <th>畦幅</th> <th>株間</th> <th>栽植本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>間口6.0m</td> <td>1.5m</td> <td>25cm</td> <td>2,660本</td> </tr> </tbody> </table> <p>・老化苗は生育が劣るので、定植適期の苗をやや深植えする。 ・定植後は保温に努め、適宜灌水し活着を促す。</p> <p>○整枝、誘引 長さ1.5m程度の支柱を2m間隔で畦の両側に平行に立てる。 茎葉の倒伏防止のためネットまたはテープを利用し、畦上30cmと1.1mの高さに張る。</p>	施設規模	畦幅	株間	栽植本数	間口6.0m	1.5m	25cm	2,660本	<p>温度管理 礼肥施用 立茎開始</p>	<p>○立茎の方法 (1)日量15kg/10aを下回る頃を目安に立茎を開始し、細めのL級（茎の太さ11～12mm）の太さで勢いの良いもの10本/m程度立茎する。 (2)立茎はこぶし大（約10cm）より離れた場所のものを残す（1芽1本）。 (3)アスパラリングを利用すると作業がしやすく、親茎の太さが揃いやすい。</p>
	施設規模			畦幅	株間	栽植本数							
	間口6.0m			1.5m	25cm	2,660本							
中													
下													
4	上	灌水	<p>○不良株の植え替え ・定植2ヶ月後に新たな茎葉が出にくい株は植え替えを行う。</p> <p>○灌水 畦の表面が乾かないようにする。 ・目安として、春先は3～5t/5日、夏場は5～10t/2～3日程度の灌水を行う。</p> <p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月からヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。 ・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○下温対策 ・クレフノンか寒冷紗によりハウス内温度を下げる。 また、妻面を開放し、ハウス内換気を徹底する。</p> <p>○追肥 ・7月中旬にLPコート100日タイプを20kg/10a施用する。</p> <p>○茎の整理 ・茎葉が60cm以上になったら、下段のネットを50cmの高さに上げ、3mm以下の細茎を除去する。</p>	<p>誘 引</p>	<p>○整枝、誘引 (1)倒伏防止を徹底する（2段誘引）。 (2)親茎先端の葉が展開し始めた頃に120～150cmの高さで摘芯する。摘心高はハウスの大きさ等により調整する。また、50～70cm以下の下枝、ひこばえは除去する。 (3)上位節から発生する二次分枝、三次分枝は8月中旬まで、下位節からの二次分枝は9月末まで全て除去する。</p>								
	中												
	下												
5	上	<p>黄色蛍光灯 点灯開始 農薬散布 (茎枯病、褐斑病 スリップス予防)</p>	<p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月よりヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。 ・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○追肥 ・6月中旬より液肥（N成分で1～1.5kg/10a・回）を月2回施用する。併せて、発根促進剤を月1～2回施用する。また、7月にLPコート100日タイプを30kg/10a施用する。</p> <p>○灌水 ・適宜灌水して畦の表面が乾かないようにする。目安として5t/5日、夏場は5t/2日程度の灌水を行う。</p> <p>○下温対策 ・夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。</p> <p>・外張りビニール張替の際は、夏季の昇温抑制効果のある光散乱フィルムを検討する。</p>	<p>黄色蛍光灯 点灯開始 追 肥</p>	<p>○黄色蛍光灯点灯 ・6月よりヤガ類飛来防止のため黄色灯を点灯する。 目安としては、暦の日の入り1時間前～日の出30分後とする。 ・黄色灯が設置できない圃場では交信攪乱剤コンフューザーVを100本/10a設置する。</p> <p>○追肥 ・6月中旬より液肥（N成分で1～1.5kg/10a・回）を月2回施用する。併せて、発根促進剤を月1～2回施用する。また、7月にLPコート100日タイプを30kg/10a施用する。</p> <p>○灌水 ・適宜灌水して畦の表面が乾かないようにする。目安として5t/5日、夏場は5t/2日程度の灌水を行う。</p> <p>○下温対策 ・夏場は、強い雨が降込む時を除いて雨除けを行う感覚で妻面や谷部、サイドビニールを十分開放する（夜間も開放）。</p> <p>・外張りビニール張替の際は、夏季の昇温抑制効果のある光散乱フィルムを検討する。</p>								
	中												
	下												
6	上	<p>灌水 下温対策 誘 引 追 肥</p>	<p>○追肥 ・7月中旬にLPコート100日タイプを20kg/10a施用する。</p> <p>○茎の整理 ・茎葉が60cm以上になったら、下段のネットを50cmの高さに上げ、3mm以下の細茎を除去する。</p> <p>○整枝、摘心 ・基本的に摘心はしないが、茎葉展開後、先端部が天井ビニールに当たったり、垂れるなどして通風性や作業性が損なわれる箇所は、120～150cmで摘心する。摘心高はハウスの大きさ等により調整する。 ・株元の直径が8mm以上の茎が10本以上になったら5mm以下の茎を除去する。 ・9月以降萌芽する若茎は除去、整理する。 ・二次分枝、三次分枝の発生によって込み具合が強ければ、適宜除去して採光性を良くする。</p>	<p>灌水 下温対策</p>	<p>○追肥 ・7月中旬にLPコート100日タイプを20kg/10a施用する。</p> <p>○茎の整理 ・茎葉が60cm以上になったら、下段のネットを50cmの高さに上げ、3mm以下の細茎を除去する。</p> <p>○整枝、摘心 ・基本的に摘心はしないが、茎葉展開後、先端部が天井ビニールに当たったり、垂れるなどして通風性や作業性が損なわれる箇所は、120～150cmで摘心する。摘心高はハウスの大きさ等により調整する。 ・株元の直径が8mm以上の茎が10本以上になったら5mm以下の茎を除去する。 ・9月以降萌芽する若茎は除去、整理する。 ・二次分枝、三次分枝の発生によって込み具合が強ければ、適宜除去して採光性を良くする。</p>								
	中												
	下												
7	上	<p>茎の整理 灌水</p>	<p>○ヤガ類の飛来状況により黄色灯の点灯を終了する。</p> <p>○茎葉の黄化促進 ・ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2,3回）。</p> <p>○全刈り ・茎葉が黄化した頃、地際部より刈取り、圃場全面畦表面をバーナーにより焼却する。焼却後、トリフミン水和剤1,000倍液を株元に（3ℓ/m²）灌注する。 ・バーナーは火力が強いほど有効であり、特に株元をじっくり焼却する。 ・冬肥、堆肥を圃場全体に施用する。 ・萌芽開始までに除草剤を土壌全面に処理する。（センコル水和剤150g/10a、水100リットル）</p>	<p>整 枝</p>	<p>○ヤガ類の飛来状況により黄色灯の点灯を終了する。</p> <p>○茎葉の黄化促進 ・ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2,3回）。</p> <p>○全刈り ・茎葉が黄化した頃、地際部より刈取り、圃場全面畦表面をバーナーにより焼却する。焼却後、トリフミン水和剤1,000倍液を株元に（3ℓ/m²）灌注する。 ・バーナーは火力が強いほど有効であり、特に株元をじっくり焼却する。 ・冬肥、堆肥を圃場全体に施用する。 ・萌芽開始までに除草剤を土壌全面に処理する。（センコル水和剤150g/10a、水100リットル）</p>								
	中												
	下												
8	上	<p>農薬散布 (ヨトウムシ類、 褐斑病予防)</p>	<p>○ヤガ類の飛来状況により黄色灯の点灯を終了する。</p> <p>○茎葉の黄化促進 ・ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2,3回）。</p> <p>○全刈り ・茎葉が黄化した頃、地際部より刈取り、圃場全面畦表面をバーナーにより焼却する。焼却後、トリフミン水和剤1,000倍液を株元に（3ℓ/m²）灌注する。 ・バーナーは火力が強いほど有効であり、特に株元をじっくり焼却する。 ・冬肥、堆肥を圃場全体に施用する。 ・萌芽開始までに除草剤を土壌全面に処理する。（センコル水和剤150g/10a、水100リットル）</p>	<p>農薬散布 (ヨトウムシ類、 褐斑病予防)</p>	<p>○ヤガ類の飛来状況により黄色灯の点灯を終了する。</p> <p>○茎葉の黄化促進 ・ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2,3回）。</p> <p>○全刈り ・茎葉が黄化した頃、地際部より刈取り、圃場全面畦表面をバーナーにより焼却する。焼却後、トリフミン水和剤1,000倍液を株元に（3ℓ/m²）灌注する。 ・バーナーは火力が強いほど有効であり、特に株元をじっくり焼却する。 ・冬肥、堆肥を圃場全体に施用する。 ・萌芽開始までに除草剤を土壌全面に処理する。（センコル水和剤150g/10a、水100リットル）</p>								
	中												
	下												
9	上	<p>黄色蛍光灯の 点灯終了</p>	<p>○ヤガ類の飛来状況により黄色灯の点灯を終了する。</p> <p>○茎葉の黄化促進 ・ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2,3回）。</p> <p>○全刈り ・茎葉が黄化した頃、地際部より刈取り、圃場全面畦表面をバーナーにより焼却する。焼却後、トリフミン水和剤1,000倍液を株元に（3ℓ/m²）灌注する。 ・バーナーは火力が強いほど有効であり、特に株元をじっくり焼却する。 ・冬肥、堆肥を圃場全体に施用する。 ・萌芽開始までに除草剤を土壌全面に処理する。（センコル水和剤150g/10a、水100リットル）</p>	<p>●収穫終了 ビニール 開放</p>	<p>○夏芽どりの注意点 (1)収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2)高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝と夕方の2回収穫する。</p>								
	中												
	下												
10	上	<p>黄色蛍光灯の 点灯終了</p>	<p>○ヤガ類の飛来状況により黄色灯の点灯を終了する。</p> <p>○茎葉の黄化促進 ・ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2,3回）。</p> <p>○全刈り ・茎葉が黄化した頃、地際部より刈取り、圃場全面畦表面をバーナーにより焼却する。焼却後、トリフミン水和剤1,000倍液を株元に（3ℓ/m²）灌注する。 ・バーナーは火力が強いほど有効であり、特に株元をじっくり焼却する。 ・冬肥、堆肥を圃場全体に施用する。 ・萌芽開始までに除草剤を土壌全面に処理する。（センコル水和剤150g/10a、水100リットル）</p>	<p>●収穫終了 ビニール 開放</p>	<p>○夏芽どりの注意点 (1)収穫は萌芽茎が27～28cmになった時、太さにかかわらず、地際より全部収穫する。 (2)高温期で若茎の伸びが速いので、最盛期は早朝と夕方の2回収穫する。</p>								
	中												
	下												
11	上	<p>黄色蛍光灯の 点灯終了</p>	<p>○ヤガ類の飛来状況により黄色灯の点灯を終了する。</p> <p>○茎葉の黄化促進 ・ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2,3回）。</p> <p>○全刈り ・茎葉が黄化した頃、地際部より刈取り、圃場全面畦表面をバーナーにより焼却する。焼却後、トリフミン水和剤1,000倍液を株元に（3ℓ/m²）灌注する。 ・バーナーは火力が強いほど有効であり、特に株元をじっくり焼却する。 ・冬肥、堆肥を圃場全体に施用する。 ・萌芽開始までに除草剤を土壌全面に処理する。（センコル水和剤150g/10a、水100リットル）</p>	<p>黄色蛍光灯 点灯終了 農薬散布 (褐斑病)</p>	<p>・収穫終了後はビニールを開放して冷気にさらす。 ・収穫終了後も乾燥させないため、灌水はこまめに継続する。（収穫終了後の水管理の差が春芽の収量差に出てくる）。</p> <p>・茎葉の黄化が遅い圃場は、ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2,3回）。</p>								
	中												
	下												
12	上	<p>× 全刈り バーナー焼却 冬肥施用</p>	<p>○ヤガ類の飛来状況により黄色灯の点灯を終了する。</p> <p>○茎葉の黄化促進 ・ホスプラス1,000倍液を茎葉全体に散布する（11月中旬から7～10日おきに2,3回）。</p> <p>○全刈り ・茎葉が黄化した頃、地際部より刈取り、圃場全面畦表面をバーナーにより焼却する。焼却後、トリフミン水和剤1,000倍液を株元に（3ℓ/m²）灌注する。 ・バーナーは火力が強いほど有効であり、特に株元をじっくり焼却する。 ・冬肥、堆肥を圃場全体に施用する。 ・萌芽開始までに除草剤を土壌全面に処理する。（センコル水和剤150g/10a、水100リットル）</p>	<p>灌 水</p>	<p>・茎葉が十分に黄化した頃、地際部より刈取り焼却する。刈取り後、バーナー焼却を行う。焼却後、トリフミン水和剤1,000倍液を株元に（3ℓ/m²）灌注する。 ・冬肥、堆肥を畦上に施用する。 ・萌芽開始までに除草剤を土壌全面に処理する。（センコル水和剤150g/10a、水100リットル）</p>								
	中												
	下												

